

⑥ 王祇祭に向かって		
	○人々	64 年が明けると、早速、 黒川では王祇祭に向けて 一連の神事が始まります。
	○興行	65 その最初が、1月3日、 上座と下座、同時に それぞれの場所で行われる <small>こうぎょう</small> 興行という神事です。
		66 ここで、王祇祭で舞う 黒川能の演目が発表されます。 興業は、祭りの始まりを告げる 重要な儀式なのです。 翌日から役者衆の 稽古が始まります。
	○十七夜	67 1月17日は、春日神社の <small>じゅうしちやさい</small> 十七夜祭、

		<p>別名・宮上り<small>みやのぼり</small>ともいう 重要な神事です。</p> <p>68 当屋頭人の<small>けんもつ</small>釦持さんと 小林さんに<small>くにつかさ</small>国司の称号が 与えられます。</p> <p>以後、二人は 王祇祭が終わるまで その称号で呼ばれます。</p> <p>69 5歳の男子が舞う<small>だいちふみ</small>大地踏は 王祇祭でのみ披露される 特別な演目です。</p> <p>70 大地踏で初舞台を踏んだ 子供たちは、その後も 次々と様々な演目に出演。</p>
	○大地合せ	
	○能の稽古	

	<p>○成田君</p> <p>○稽古</p> <p>○寒鱈漁</p>	<p>やがて一人前の役者衆と なっていくります。</p> <p>下座の成田<sup>なりたまさる</sup>大君も、 その一人です。</p> <p>成田「去年は石<sup>しゃつきょう</sup>橋というのをやって、 初めてのやつで、セリフのいい方が 難しいやつで、慣れるのにたいへん だったんですけども、覚えられてよ かったと思います」</p> <p>71 高校を卒業する成田君は  地元で就職が決まり、  今後も役者を続けて行く  ことになりました。</p> <p>72 冬の日本海  1月は 寒鱈漁の最盛期です。</p>
--	------------------------------------	---

	<p>○どんがら汁</p>	<p>73 庄内の人々は 脂ののった寒鱈の味覚を 様々な形で楽しみます。</p> <p>74 なかでも 寒鱈のアラと白子を 味噌で味付けした どんがら汁は有名です。</p> <p>75 まさに庄内ならではの 野趣満点な味覚です。</p>
	<p>○豆腐焼き</p>	<p>76 黒川の風物詩は 毎年恒例の豆腐焼きです。</p> <p>77 上座の当屋、 けんもつ 鈕持さんの家では、 近隣の人々が集まり、</p>

		<p>串に刺した豆腐を 焼いていました。</p> <p>78 雪が降る直前に収穫した 旬の食材・大豆。 その大豆を使った豆腐は、 昔からこの時期に用意できる 最高のご馳走でした。 二日かかりで数千本もの 豆腐を焼きます。</p> <p>79 一方、下座の当屋、 小林さんの家では、 一度焼いた豆腐を お味噌で煮ていました。</p> <p>80 その後、寒気に晒して 凍らせて保存します。</p>
	○豆腐煮	
	○晒す	
	○当屋使い	

		<p>81 1月31日。</p> <p>当屋の使いが氏子の家を</p> <p>1軒ずつ回って、</p> <p>祭りの開催を告げます。</p>
--	--	--